

最高の卒業式に

みなさんとの別れの時がやってきました。新型コロナウイルスの感染予防のために、急に2月28日（金）が最後の授業となり、練習や準備のない中での卒業証書授与式になりました。本来なら、もう少しみなさんと共に過ごす時間があり、別れを惜しむ時間があったことでしょう。みなさんと同じように先生たちも本当に残念に思っています。しかし、御陵中学校で過ごした三年間で結ばれたみなさんの「絆」は何も変わるものではありません。クラスの仲間、同じ学年の仲間、部活動の仲間、そして先生たちとの出来事の一つ一つが、みなさんを成長させてくれました。みなさんを大きく成長させてくれたこれから母校となる御陵中学校は、心から誇れる学校だと思います。生徒会スローガン『御陵Home』とあるように、御陵中学校はいつでもみなさんの大切な居場所です。

卒業は別れの日であり、新たなスタートを切る日でもあります。居心地の良かった場所を離れ、新たな場所でそれぞれが進み始めます。まだ見ぬ世界への不安、これから待ち受けている試練にも立ち向かっていかなければなりません。でも、三年間いっしょに頑張ってきた仲間、そして先生たちはいつもあなたたちの心の中にいます。いつの日か、一生忘れられない今日の卒業式や、仲間と共に過ごしてきた三年間の思い出をいっしょに語る日がくることを願っています。

《保護者の皆様へ》

お子様のご卒業おめでとうございます。三年間、御陵中学校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。子どもたちは、この三年間で、一人ひとりが大切にされる心温かいまとまりのある学年をつくってくれました。保護者の皆様の応援や励ましがあったからこそ、子どもたちがこのように成長できたのだと感謝しております。本当にありがとうございました。

最後になりますが、大野城市から卒業生へ卒業証書入れを、PTAから卒業生へ印鑑をいただいておりますのでご紹介します。なお、卒業生から中学校へ卒業記念品として卒業生の保護者の皆様から『ジェットヒーター』をいただきました。大切に使用させていただきたいと思っています。重ねてお礼申し上げます。



子どもたちのこれからの人生が、『虹』のように輝かしいものとなりますよう祈念するとともに、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

最後になりますが、卒業式の中ですべてをお聞かせできなかった生徒会長、浜辺祥希くんの三年間の思いの詰まった『答辞』を紹介させていただきます。

答辞

冬の寒さも過ぎ去り、暖かい陽射しが春の訪れを感じさせるようになりました。

先程は、校長先生をはじめ、ご来賓の皆様からお祝いと激励のお言葉をいただきましたことに心からお礼申し上げます。

私たち三年生、八十五人は今日、この御陵中学校を巣立っていきます。この御陵中学校で過ごした三年間は、本当に充実した、意義深いものでした。今、振り返ると、この体育館で入学式に臨んだ日が、鮮明に思い出されます。

着慣れない制服に身を包んで迎えた入学式。あの時の私は、今日のこの日のことなんて、想像すらしていない、ただただ中学校生活への期待に胸がいっぱいの、まだまだ幼い子供でした。

入学して間もなく迎えた自然教室。集団生活において大切なことは何かを学び、仲間との信頼を深めることのできた体験でした。

それからの日々は、目まぐるしくすぎていきました。部活動、体育祭、定期考査、文化祭。初めての体験続きで、とても先輩方からの支えや学びがなくては、乗り越えることはできなかったと思います。

そんな私たちも、やがて二年生に進級し、「先輩」と呼ばれるようになりました。学校生活の様々な場面において、学ぶ立場から教える立場へと変わっていくことで、少しずつ成長することができたように思います。そんな意味では、この時期の私たちを支え、励ましてくれたのは「後輩」という存在なのかもしれません。

二年生と言えば修学旅行。大人になっても、きっと思い返しては、思わず笑みがこぼれるような、素敵な思い出です。自分たちで計画して行動するという体験を通して、それぞれが大切な、かけがえのない存在であることを実感しました。この修学旅行の体験が、私たちを「共に生きる仲間」へと成長させたように思います。



そして、ついに迎えた三年生。全てのことに「最後」がつく一年間。そのプレッシャーにつぶされそうな時もありました。

「最後」の体育祭。「史上最高の体育祭を創り上げる」という強い気持ちのもとに、ブロックリーダーを中心に、各ブロックが一丸となって取り組みました。一、二年生の時にはわからなかった、先頭に立つ重みを感じながら、汗を流し、声を振り絞って頑張りました。結果はそれぞれでしたが、「史上最高の体育祭」になったと信じています。

部活動が終わりを告げた夏。どんなに暑い日でも、どんなに寒い日でも、きつい練習を乗り越えられたのは、仲間がいたからでした。多くの人から激励を受け臨んだ中体連・中文連大会。自分の三年間の努力を悔いなく発揮することができたと思います。

最後の文化祭では、どのクラスも必死になって合唱練習に取り組みました。三年生の学級曲にふさわしい、高い難易度の曲に、自分たちの三年間の思いを全てぶつけて、最高の合唱を創り上げようと必死でした。時には仲間とぶつかり合うこともありました。けれど、それでも仲間を信じて歌ったからこそ、あのすばらしい合唱を創り上げることができたのではないかと思います。この文化祭で、学級の絆がいっそう深まったように感じます。

こうして振り返ると、私たちには宝物のような思い出がたくさんあることに気づきます。こんなにも素晴らしい三年間を過ごすことができたのは、仲間がいてくれたからこそ。そしていつも私たちと真っすぐに向き合ってくださった先生方がいてくださったからです。先生方が私たちを支えてくださったからこそ、私たちはここまで成長することができたのです。そんな先生方を困らせることも多かった私たちですが、先生方には本当に感謝しています。今まで本当にありがとうございました。

私たちに寄り添い、温かく見守ってくれた家族。お父さん、お母さん。いつも、わがままで、素っ気ない態度ばかりでごめんなさい。けれど、どんなに悲しいことがあっても、どんなにつらいことがあっても、私たちにとって家族はいつも、心の拠り所でした。温かい、帰る場所があることが、時に私たちの臆病な背中を押してくれたのです。いつもは照れて言いつらい感謝の言葉を、今日は言います。本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひします。

在校生の皆さん。今日は私たちの旅立ちの日を祝ってくれてありがとうございます。私たちは、皆さんの目標となれる先輩だったでしょうか。頼りない面もあったかと思いますが。私たちは、皆さんと共に、学校生活を過ごすことができたことに、心から感謝しています。一年生の皆さん。四月からは「先輩」ですね。どうかこの一年間で学んだことを、様々な場面で「後輩」に教えてあげてください。二年生は最上級生になります。様々な場面で期待される喜びを感じると共に、苦しい思いもするこ

とと思います。けれど、そんなときこそ仲間がいる。仲間と協力することで乗り越えられるはずで。そして、在校生みんな、この御陵中学校の伝統を守り、更に素晴らしい学校にしてください。

そして最後に、三年生のみんな。みんなと過ごしたこの三年間は、私にとって本当に大切な時間でした。共に笑って、共に泣いて、たくさんの思い出を創ってきました。悲しい時には、みんなが笑わせてくれた。苦しい時には、その重みを共に背負ってくれた。そして楽しい時には、涙が出る程笑いました。みんなと過ごした時間は、今、しっかりと私の心に刻まれ、決して忘れることはないと思います。けれど、そんな時間も今日で終わりです。

朝が来て、制服に着替え、歩きなれた通学路を、友だちと並んで歩く。当たり前のように校門の坂を上がり、賑やかな教室に入る。みんなの笑顔。そんな当たり前の朝。明日の朝からは、もう一人です。本当に大切なことは、失くしてから気づく。そんなことを、今、身に染みて感じています。

そう、明日からは、この御陵中学校を離れ、私たち八十五名、それぞれがそれぞれの道へと進んでいくのです。私たちが進む先には、様々な困難や障害が立ちまわっているでしょう。けれど、苦しい時、辛い時こそ前を向こう。この御陵中学校で過ごした三年間の思い出が、きっと私たちの背中を押してくれる。前へ前へと押してくれるはずで。

さあ、そろそろお別れの時です。教室、体育館、グラウンド、見慣れた風景が、明日からは思い出の風景に変わります。この御陵中学校、そして三年生のみんなと別れる辛さに、今は胸がいっぱいです。でも、別れを避けては通れません。けれど、進む道は分かれても、私たちの思いは、いつもつながっています。私たちは、永遠に仲間です。また、いつか、笑顔で逢いましょう。みんな、本当にありがとう。



令和2年3月13日

卒業生代表 浜辺祥希